

2/13水曜

# 女子の大学進学二重格差

地域 10県30%台 東京の半分

性別 「野球より上」 2県のみ

2021年春の女子の大  
学進学率(四年制)は、都  
道府県別で最も低い鹿児島  
が34・6%となりましたが  
が30・8%となりました。東京が最  
高の74・1%で、2・14倍

の開きがありました。女子の進  
学率が男子を上回ったのは  
徳島と沖縄の2県のみで、  
地域と性別による重の格  
差の存在が浮かんで。  
【5面「教職深説」】

※文部科学省が例年算出)  
地域と性別による重の格  
差の存在が浮かんで。  
【5面「教職深説」】

飲食中もマスク

国際女性デー  
2022

都道府県別女子の大学進学率(2021年春)  
1位 東京 74.1%  
2位 京都 66.8%  
3位 兵庫 56.1%  
4位 奈良 55.5%  
5位 大阪 54.6%

福井は49%

順位	都道府県	進学率
43	岩手	37.4%
44	山口	37.1%
45	佐賀	36.6%
46	大分	35.8%
47	鹿児島	34.6%

め、国や自治体、学校などが協力し複合的な課題を解決する姿勢が求められる。  
全国の進学率は女子51・3%、男子57・4%。ともに上昇傾向にある。男子の都道府県格差は學大1・92倍だった。

女子の都道府県別では、大学が多数立地する東京と京都(66・8%)が突出。50%超は12都道県で、主に都市部とその近郊だった。下位には九州や東北、中国

は、山梨が男子72・7%、女子54・5%で1・93倍と最も大きかった。福井は男子が57・6%、女子が49・2%で1・17倍だった。

女子進学率最低下位の鹿児島教育委員会は男子も低じておらず、他県より普段校に通つた高校生が少なく、専門高校に通つた生徒が多い。大学進学を目標として高校に進む割合が少ないと説明。男女差最大の山梨県教委は「分析していないので明確な理由は分からない。公立校だけを見れば大きな差はないのではないか」とした。

給付型奨学金充実を実現するには、学力だけでなく、家庭の所得、本人や親の意欲などが関係している。家計が苦しい地方の女子は最も不利な立場にある。女子の進学率はさらに上昇するとの試算もあるが、新型コロナウイルス禍や経済事情の変化があり、先行きは見通せない。進学を促すには給付型奨学金の充実を図る必要がある。国の現在の制度は、対象世帯の所得区分が三つしかなく、わずかな差で支給額が変わる。中間層への支援が導入前よりしづれなくなつておらず、改善すべく

地方政府が目立つた。男子の進学率が50%を超えたのは24都道府県で、女子の2倍に上った。

(高等教育論)の話

桜美林大の小林雅之教授